

開設年度		開講部局	
2010		共通教育	
科目名			
環境教育・ESD入門I			
英語科目名			
Basic Seminar of Environmental Education and ESD I			
前後期		履修期	開講区分
前期		1期	毎週
科目形態	単位数	大分類(科目)	中分類(分野)
講義	2	教養科目	分野3
受講学部学科			
全			
担当教員		担当教員所属	
萩原 豪		稲盛アカデミー	
連絡先(TEL)		連絡先(MAIL)	
099-285-3757		k6219828@kadai.jp	
オフィスアワー(授業時間外の対応)			
【オフィスアワー】毎週木曜日3時限目 オフィスアワーでの対応については、できるだけ事前にメールでアポイントをとるようにしてください(ダブルブッキングを避けるため)。			
共同担当教員			
キーワード1		キーワード2	
視野・判断力・探求能力		コミュニケーション能力と相互理解	
授業概要(目的・内容・方法)			
<p>本講義は前後期連続の、少人数演習形式(原則として受講者数35名以内)で行います。</p> <p>受講生は必ずひとつのワーキンググループ(WG)に参加し、グループごとに実践プロジェクトを目指した研究活動を行ってまいります。WGはNESCU-SHORTと銘打って、(1)自然、(2)資源・エネルギー、(3)社会(企業)、(4)地域、(5)大学、(6)焼酎、(7)温泉、(8)ラーメン、(9)トイレ、の9つを設定しています。</p> <p>各WGでは具体的な研究課題を決め、問題の背景や現状等を整理・考察していきます。前期はWGで提案する実践プロジェクトの企画書を作成した上で、プレゼンテーションをしてもらいます。この実践プロジェクトは「お金をかけず、誰でも簡単に手軽にできる」ことを前提条件とします。</p> <p>例えば、(5)大学のWGでは、大学をエコ化するという大きな枠組みとして掲げた上で「ゴミ分別」について検討することができるでしょう。この場合、環境教育やESDの視点から「ゴミ分別」について考えるだけではなく、その背景として「どうしてゴミ分別が必要なのか」というところから考えることができます。最終的に「ゴミ分別」をとりまく状況を整理した上で、どのようにすればよいのか、ということをご提案していただきます。(これはあくまでも一例です。)</p>			
学習目標			
<p>本講義では環境教育やESDの国内外の動向を理解するとともに、環境問題について多角的な視点から考察していく機会を共有します。その中で受講生が自ら行動し、自分の眼と耳と足で、問題を発見・考察・分析・整理・発表するという社会人としての基礎技術を習得することを最終目標としています。受講生には積極的な参加(単なる出席ではなく発言すること)を求めます。なお、情報発信の訓練として、課題等(A4用紙1枚程度)を最低2回提出してまいります。</p>			
授業計画(15回に分け、回数、授業内容、自学自習等)			
<p>第1回目の授業はガイダンスを行い、履修希望者の登録作業を行います。その際、履修希望者の関心がどのようなどころにあるのかを確認していきます。その後の流れは以下のように考えていますが、受講生の関心や時事的なテーマなども踏まえて、その都度、柔軟に対応していきます。授業では講義とグループワークを組み合わせで行ってまいります。そのため授業時間外に、グループ毎の作業のための連絡をとりあう必要が出てくると思います。6月の週末に1泊2日の研究合宿(桜島あるいはおおすみくん家)で行うことを計画しています。</p>			

- ・ガイダンス
- ・「環境」を取り巻く問題に関するグループディスカッション
(基礎的なもの、時事的なものを組み合わせる予定です)
- ・プロジェクト研究(グループ毎)
- ・中間報告
- ・最終プレゼンテーション
- ・企画書作成

受講要件	成績の評価基準
本講義のテーマに関心を持ち、自らが「持続可能な社会」に対する活動を実践したいと思っていること。	授業態度30%、課題等提出物30%、グループワーク40%で総合的に判断します。出席が総授業数の3分の2未満の場合、または最終レポートの提出がない場合は評価対象外とします。
教科書	参考書
教科書は使用しません。必要な資料は毎回の授業で配布します。 課題作成のために必要な書籍は別に指定します。	阿部治・野田研一監修『あなたの暮らしが世界を変える 持続可能な未来がわかる絵本』山と溪谷社、2007年。 今村光章編『持続可能性に向けての環境教育』昭和堂2005年。 日本環境教育フォーラム編著『日本型環境教育の提案』小学館、2000年。

その他

授業運営の関係から、受講者数は35名以内に制限します。原則として、後期の「環境教育・ESD入門(2)」を継続して履修することを条件とします。専門科目と授業日程が重なる可能性がありますので、必ず所属学科の後期日程を確認してから受講登録をしてください。なお後期履修ができない場合でも、何らかの形で活動に参加することを条件に履修を許可することもあります。

履修希望者は第1回目の授業に必ず来てください。履修登録を行っても、第1回目の授業に出席しない場合、履修登録は無効とします。また履修登録人数が多い場合は抽選とします。